

算命学中庸

【初年】 6 1 回目

6 1 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【天中殺論】 (7)

【初年】 6 1 回目 【天中殺論(7)】 「十二大従星中殺」 01

⇒ **十二大従星中殺** (じゅうにだいじゅうせいちゅうさつ)

十二大従星中殺の特徴はいくつかあります。

十二大従星中殺は自分の宿命に天中殺がなくても、
後天運で必ず回ってきます。

十大主星中殺も十二大従星中殺もまわって来ます。
ですから、十大主星の天中殺が周って来たときは、
それらの天中殺の意味合いになります。

06 ページへ続く ➡

参考資料

十二大従星中殺

1

天報星中殺 ⇒ 胎児

胎児は現世に生まれてくる前の時代であるので、現世の前すなわち親や先祖と関係なく生きられる人になる。また過去にこだわらない人となる。生まれる前という状態を物事に例えると、物事を実行に移す前の段階、つまり計画の段階である。そこが中殺されるため、計画をたてるのが下手・苦手、または計画にこだわると物事がうまく進まなくなる。

天印星中殺 ⇒ 赤子

赤子の時代に、病気・怪我等になりやすく、親が苦勞させられる。また物事の出発時に自分の思いどおりにならない状態となりやすく、様々な問題が起こる。その為、仕事なら新入社員の時代に、結婚なら新婚時代に苦勞が多くなる。

天貴星中殺 ⇒ 児童

物事を始めて3～4年目位の所で中殺現象が出やすい。つまり物事を始めてやっとそれに慣れてきた所で油断して失敗する。そのためこの時期は特に注意が必要である。本来、プライドの高い星であるため、失敗すると自信喪失する。知識欲が中殺されるため、変わった知識・不自然な知識を身につけやすい。

天恍星中殺 ⇒ 少年

子供から大人になる過程の時代が中殺されるため、大人になりきれない。そのため、精神に幼児性が残るとも言えるが、常識にとらわれない考えのできる人にもなる。堅い仕事や真面目さを必要とする仕事には向かず、自由な仕事・不安定な世界に向く。それは本人の精神状態がさせるものであるが、本人が特別に意識しない所でおこなわれるものである。

十二大従星中殺

2

天南星中殺 ⇒ 青年

社会に出たばかりの所で問題が起こりやすく、本人の希望通りの状態とはならない。精神と現実のアンバランスが原因で、挫折を味わう。初年期に現実面を鍛えていな

いと、挫折から立ち直れず、臆病者・自立心に欠けた人となり、鍛えられていると立ち直れる。

天禄星中殺 ⇒ 壮年

過去の経験にこだわらない人となる。また学校で学んできたことや、仕事で経験してきた分野に固執しない方が実力を発揮できる。

そのため、職業も転職することになりやすく、またその方が伸びる、1つの生き方・自分の経験にこだわると生きづらくなる。

天将星中殺 ⇒ 家長

トップの立場に立つと実力が発揮できなくなる。家庭内でも家長の立場を意識すると家族の和を乱す結果を作る。物事でもここ一番という大事な時に、緊張したり弱気になってしまう。トップの立場でない時または平常時に力を発揮する人である。

天堂星中殺 ⇒ 老人

隠居の時代が中殺を受けるため、隠居してしまうと問題が多くなり、寿命を縮める。そのため死ぬまで従事できる仕事を持つことである。

また初年・中年においても、隠居のような生活になると(暇でやることがない等)周りに迷惑をかけ、もめごとの種を作る。

十二大従星中殺

3

天胡星中殺 ⇒ 病人

不自然な病人であるので、病気になっても自覚がないか又は無理して動くようにするか、のいずれかとなる。そのため、死ぬ時は突然死的な死に方となる。

また中殺のため、肉体と精神が共に強か共に弱かのいずれかと思いつむ。つまり非常に気が強い、または弱いのどちらかの人となる。

天極星中殺 ⇒ 死人

精神と肉体、つまり精神と現実の区別が不完全となる。本来は精神的な星であるため、現実が気になると正しい判断ができなくなる。例えば相手の心を金銭や物で判断したり、情に負けて理性を失ったり、公私混同しやすくなる。

天庫星 ⇒ 入墓

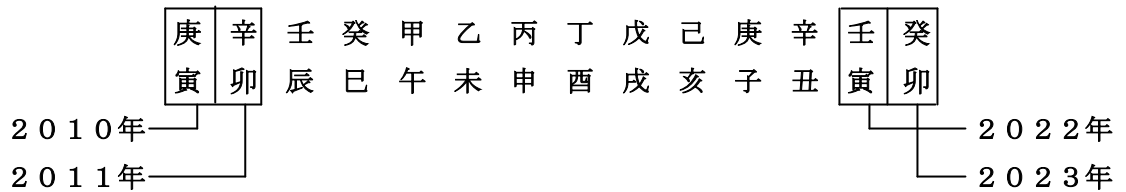
正統な跡継ぎの星が中殺されるので、自分の家系を継ぐことができなくなる。他家の跡継ぎであれば果たせる。仕事でも長年いた会社ではなく、他の会社に移って中心的存在となれる。また、物事の終わりに問題が出やすく、おもいどおりの結果とはならない。

天馳星 ⇒ 彼の世

精神性の頂点が中殺を受けるため、精神の不安定となる。そのため非常に忙しく動き回るかと思えば、逆に全く動かさずのんびりしてしまう状態を繰り返す。それは本人の精神状態がさせるものであるが、本人が特別に意識しない所でおこなわれるものである。

参考資料 「前世」「現世」「来世」

【十二大従星中殺】

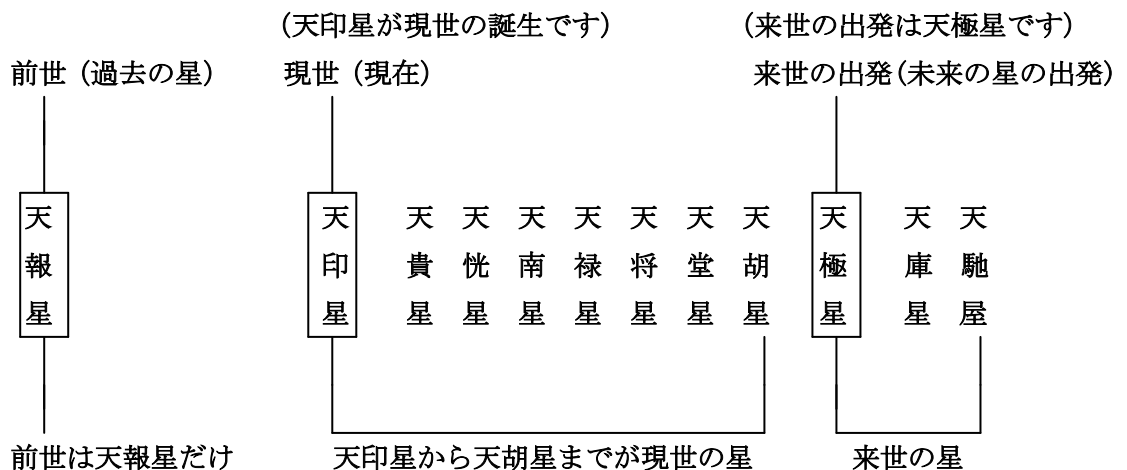


寅卯天中殺の人なら、2011年は辛金ですが、12年後にはが回ることに
なります。このように移り変わり、60年経過すると十大主星の天中殺はすべて
回ってくるということになります。

星には「前世の星」と「現世の星」と「来世の星」があります。

現世は今生きている時代のことです。

十二大従星においては「生まれた時の星は天印星」になります。



私達は現世に生きていますから、「現世は現在」「来世は未来の星」「前世は
過去」と考えます。

↳ 01 ページからの続き：

〔たとえば〕 十大主星で〔龍高星・玉堂星〕の中殺になった年は、母親に問題が起きるなど考えるのです。さらには両親と考えて、会社なら上司とのトラブルがあるなどいうようにして観てゆきます。

それらは運勢の話のなかです。

十大主星中殺と十二大従星中殺には、異なる特徴があります。

十大主星中殺は「十大主星」つぎつぎと変わってゆきます。

しかし、十二大従星中殺は変わらないのです。

〔たとえば〕 戌亥天中殺なら、おなじ『十二大従星』が天中殺になります。

『十二大従星』の特徴として、後天運で戌亥天中殺の人は、一生涯が戌亥天中殺です。

これは宿命にも出ません。

ところが「十大主星」の場合はつぎつぎと変わってゆきます。これらが特徴です。

この2つの特徴を知っておけばよいでしょう。

☞ 十大主星中殺からご説明します。

〔たとえば〕「甲子」の干支番号は 1 です。

日干支「甲子1」⇒ 戌亥天中殺

日干支「甲子」の人は、生涯「戌亥天中殺」です。

平成 7 年 (1995) 乙亥			
月	節入日	節月干支	1日干支
2	4	戊寅	癸亥
3	6	己卯	辛卯
4	5	庚辰	壬戌
5	6	辛巳	壬辰
6	6	壬午	癸亥
7	7	癸未	癸巳
8	8	甲申	甲子
9	8	乙酉	乙未
10	9	丙戌	乙丑
11	8	丁亥	丙申
12	7	戊子	丙寅
1(平8)	6	己丑	丁酉

平成 6 年 (1994) 甲戌			
月	節入日	節月干支	1日干支
2	4	丙寅	戊午
3	6	丁卯	丙戌
4	5	戊辰	丁巳
5	6	己巳	丁亥
6	6	庚午	戊午
7	7	辛未	戊子
8	8	壬申	己未
9	8	癸酉	庚寅
10	8	甲戌	庚申
11	8	乙亥	辛卯
12	7	丙子	辛酉
1(平7)	6	丁丑	壬辰

平成 9 年 (1997) 丁丑			
月	節入日	節月干支	1日干支
2	4	壬寅	甲戌
3	5	癸卯	壬寅
4	5	甲辰	癸酉
5	5	乙巳	癸卯
6	6	丙午	甲戌
7	7	丁未	甲辰
8	7	戊申	乙亥
9	7	己酉	丙午
10	8	庚戌	丙子
11	7	辛亥	丁未
12	7	壬子	丁丑
1(平10)	5	癸丑	戊申

平成 8 年 (1996) 丙子			
月	節入日	節月干支	1日干支
2 閏	4	庚寅	戊辰
3	5	辛卯	丁酉
4	4	壬辰	戊辰
5	5	癸巳	戊戌
6	5	甲午	己巳
7	7	乙未	己亥
8	7	丙申	庚午
9	7	丁酉	辛丑
10	8	戊戌	辛未
11	7	己亥	壬寅
12	7	庚子	壬申
1(平9)	5	辛丑	癸卯

そうしますと、日干支「甲子」の人は、戌亥天中殺ですから、1994(H6)「甲戌」と、1995(H7)「乙亥」は、天中殺の年だったわけです。

日干支が「甲子 1」の人は、戌亥天中殺です。

天中殺表で確認してください。

日干支「甲子」の人は、一生涯「戌亥天中殺」です。

〔たとえば〕1994 は甲木の年です。干支は「甲戌」。

1995 は乙木の年です。干支は「乙亥」。

🔍 07 頁の『干支暦』で確認してください。

戌亥天中殺をもつ人は、どなたでも1994年「甲戌」と1995年「乙亥」が天中殺の年でした。

それを「十大主星」になおします。

日干「甲木」から、1994年「甲戌」の年をみると、〔貫索星〕になります。

1995年「乙亥」の年をみると〔石門星〕です。

そうしますと、1994年「甲戌」は貫索星中殺の年になる。

1995年「乙亥」は石門星中殺の年になる。

🔍 干支歴を見るとわかります。つぎにまわって来る（戌）

と（亥）の年としは、12年後の平成18年（2006）「丙戌」と平成19年（2007）「丁亥」になります。

平成19年(2007) 丁亥			
月	節入日	節月干支	1日干支
2	4	壬寅	丙寅
3	6	癸卯	甲午
4	5	甲辰	乙丑
5	6	乙巳	乙未
6	6	丙午	丙寅
7	7	丁未	丙申
8	8	戊申	丁卯
9	8	己酉	戊戌
10	9	庚戌	戊辰
11	8	辛亥	己亥
12	7	壬子	己巳
1(平20)	6	癸丑	庚子

平成18年(2006) 丙戌			
月	節入日	節月干支	1日干支
2	4	庚寅	辛酉
3	6	辛卯	己丑
4	5	壬辰	庚申
5	6	癸巳	庚寅
6	6	甲午	辛酉
7	7	乙未	辛卯
8	8	丙申	壬戌
9	8	丁酉	癸巳
10	8	戊戌	癸亥
11	7	己亥	甲午
12	7	庚子	甲子
1(平19)	6	辛丑	乙未

平成21年(2009) 己丑			
月	節入日	節月干支	1日干支
2	4	丙寅	丁丑
3	5	丁卯	乙巳
4	5	戊辰	丙子
5	5	己巳	丙午
6	5	庚午	丁丑
7	7	辛未	丁未
8	7	壬申	戊寅
9	7	癸酉	己酉
10	8	甲戌	己卯
11	7	乙亥	庚戌
12	7	丙子	庚辰
1(平22)	5	丁丑	辛亥

平成20年(2008) 戊子			
月	節入日	節月干支	1日干支
2 閏	4	甲寅	辛未
3	5	乙卯	庚子
4	4	丙辰	辛未
5	5	丁巳	辛丑
6	5	戊午	壬申
7	7	己未	壬寅
8	7	庚申	癸酉
9	7	辛酉	甲辰
10	8	壬戌	甲戌
11	7	癸亥	乙巳
12	7	甲子	乙亥
1(平21)	5	乙丑	丙午

12年後の平成18年(2006)「丙戌」と

平成19年(2007)「丁亥」になります。

このことを「六十干支表」で確認できます ➡

☞ 「干支番号」を確認するときは、**天中殺表** をみると、速いです。なぜなら、「甲」が横一列に並んでいます。

「乙」もおなじく横一列に並んでいます。「十干」すべてが横一列に並んでいますので、探すのが簡単です。

「甲戌」の干支番号は **11** です。

「乙亥」の干支番号は **12** です。

🔍 そこで **11** と **12** を「六十干支表」でさがすと……、**甲戌 11** **乙亥 12** と見つけることができます。

1994 年「甲戌」は貫索星中殺の年で、12 年後に（戌）がまわってきますということですから、**甲戌 11** を 1 番として、そこから 13 番目をみればよいのです。

2 番目は**乙亥 12**で、12 年後は**丙戌 23**になるわけです。

☞ 干支歴でも 12 年後は **平成 18 年（2006）丙戌** です。

⇒ 話を「十二大従星中殺」08にもどします。

そうしますと、日干「甲木」から、丙火と丁火を見ると、十大主星は〔鳳閣星〕と〔調舒星〕になります。つまり「2006年は鳳閣星中殺」「2007年は調舒星中殺」の年としになります。

十大主星の場合は、このようにつぎつぎと変わっていきます。これが特徴です。

「十大主星」の天中殺は移り変わりますから……

60年が経過すると、十大主星の天中殺の場合は、全て巡めぐって来ることになります。

算命学では、不自然融合は精神性を鍛えると考えていますから、60年経過すると、一皮剥けた人間性ができます。ということでもあるのです

⇒ それでは『十二大従星』の場合はどうでしょう。

1994年の干支は「甲戌」、1995年は「乙亥」です。

🔍 『十二大従星表』を見てください。

日干「甲木」から（戌）をみると天印星です。

日干「甲木」から（亥）をみると天貴星です。

日干「甲木」から（戌）をみると、十二大従星は天印星

日干「甲木」から（亥）をみると、十二大従星は天貴星

「六十干支表」で探すと、12年後の2006年「丙戌」と2007年「丁亥」になります。

十二大従星では（戌）が天印星、（亥）が天貴星になります。

つまり『十二大従星』の場合には、天印星中殺 と 天貴星中殺 だけが、永遠にまわって来るのです。ほかの十二大従星の星はまわってこないのです。

このように「十大主星」の天中殺は変わっても「十二大従星」の天中殺は変わらないのです。

『十二大従星』の特徴として、後天運で戌亥天中殺の人は、生涯にわたって戌亥天中殺です。

十二大従星の天中殺は固定されていて、変わらないということです。

[たとえば] ➡

〔たとえば〕 子丑天中殺の人は、1996 1997 は子丑天中殺です。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛
	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑
			10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	2020	2021
	2008	2009	2010					2015						

それから、12年後の2008 2009 年も子丑天中殺です。

そして、12年後の2020年と2021年も子丑天中殺です。

【初年】 40 回目 その(2) 【十二大従星力学】 ① の勉強で……

「前世の星」「現世の星」「来世の星」がありました。

05 頁 参考資料 『十二大従星中殺』 「前世」「現世」「来世」を参照ください。

現世は、いま生きていることであり、十二大従星では、生まれたときの星は『天印星』です。

私たちは現世に生きていますから……「現世は現在」

「来世は未来の星」「前世は過去」と考えます。

☞ 天報星中殺から入ります ➡

天報星中殺

天報星は胎児の星です。

胎児の時代は1番親との縁が篤^{あつ}いときです。

胎児の時代が中殺を受けるために、親縁が薄くなります。それは望まれないで生まれてきた人です。

〔たとえば〕子供ができるとは、思わなかったのにできてしまった子供です。

あるいは、10年もの長いあいだ、子供に恵まれなかったのに、突然妊娠して生まれてくる状態です。

望んでいたけど、もう駄目だとあきらめていたのに生まれてきた子供です。

このように過去が不自然ということは、過去にこだわらない人です。

人から見て、過去を振り返らない人といえます。

それゆえに、天報星中殺の人に「過去に、なにかをして上げたから、相手が恩を感じている」と思ったなら間違いです。親切にしてあげたから、相手は自分を覚えていてくれると期待してはいけません。

天報星中殺の人は、覚えていても、そのことにこだわらないのです。

そして、天報星中殺の人は、自分が人にしてあげたことにもこだわりません。

いまは、いま、という考え方であり、恩を着せても着せられても嫌がる人です。

過去にこだわらないということを、家系と考えると突然変異の人です。

家系の質とは、全く違う質をもって誕生する人です。

〔たとえば〕真面目な家系なら不真面目な人です。

学間の家系ならスポーツ選手、商家なら農業というようにです。

その内容はわかりませんが、従来の家系の質とは、まったく異なる質の人です。

天報星という十二大従星を物事に置き換えて考えることができます。

🔍 05 頁の参考資料『十二大従星中殺』『前世』『現世』『来世』のなかほどを見てください。

現世というのは物事の出発のところですが、天報星はまだ出発していません。

計画・立案・準備をしている段階です。

そこが不自然になりますから、本人が正確に計画し

たことでも、実際にはまったく違う内容になるという現象が起きます。

いい加減になってしまうのです。

ではどうしたら良いかといえ、計画にこだわらないことです。

行き当たりばったりの生き方をすれば良いのです。

そのほうがうまくいきます。

〔たとえば〕通常、結婚するときには、いろいろな買い物をするとか、生活設計をするでしょうけど、そういうやり方をしますと、実際の結婚生活において、ことごとく違うようになってしまい悩みます。

それゆえに、計画を立てずに、突然結婚をするほうが良いのです。

何も考えずに、物事をスタートするという事は、ないはずですから、綿密な計画を立てないで実行に移すことです。

計画や企画を綿密に立てれば立てるほどに、実行に移せなくなるということも起こります。

天印星中殺

天印星は赤ん坊の時代の星です。天印星中殺は赤ん坊の時代が中段されています。

赤ん坊のときには、痛いとか苦しいとかがあっても覚えていませんが、そのようなときに誰が心配して悩み苦しむかという親です。

赤ん坊の時代が中殺されていますから、本人に何か起きても本人はわからないのです。

つまり親が苦勞させられるという状態になります。

この世に生まれた時から全ての物事・事象がはじましますので、赤ん坊の時代（人生の始まりの出発点）を現実の物事に置き換えて考えますと、人生の始まりが中殺されるために物事の始めに問題が起きます。

仕事でも結婚でも、物事の始めに問題が噴出して、物事が思いどおりに進まなくなります。

就職すると「こんな計画ではなかった」、結婚すると「このような結婚生活になるとは」ということが起こります。始める前と、始めた時の思いが異なってしまう人で、始めに問題が起きる人です

物事のはじめに苦勞が起きる人ですが、その時期が過ぎれば、後は順調に行く人でもあります。

いままで説明しているのは、宿命中殺のことですが、宿命中殺をもっている事実は生涯変わりません。

ゆえに、天印星中殺をもっているのは、生涯変わりませんから、物事のはじめに問題が生じます。

☞ どのように対処したら良いのかです。

天印星は赤ん坊の星です。

赤ん坊はすべてを受け身で生きていますから、物事のはじめを受け入れることができます。

それゆえに、受け身で生きることです。

積極的にやってはいけません。

物事の始めは“おとなしくしていなさい”ということなのです。

〔たとえば〕結婚して、なにか問題が起きても相手の責任ではないのです。

天印星中殺をもつ人の責任であるということです。

たとえ相手が悪いように想えても、見えても、宿命中殺をもつ人の責任になります。

女性の夫が浮気したという場合でも、女性の宿命に

「夫が浮気する」と書かれていたら、女性の宿命の問題です。

これが算命学の考え方であり、本人の思考が変わらない限り、夫の浮気は収まらないということです。

それゆえに、女性にとっては、不満があっても受け入れる気持ちが肝要といえます。

天貴星中殺

天貴星は児童の星です。

この星は生まれてから3年くらい過ぎた時代です。
なにかをいじり始めて、それがなんなのかがわからないけれど、それをいじり回す、その物事に熱中して一生懸命に取り組む児童の姿といえます。

天印星であれば、就職して、その職場で与えられた仕事をとにかく、一生懸命やるということが天印星の時代です。

そして、3～4年経つとようやく落ちついて、周囲の事象を冷静に観察できるようになってきます。

その時代（天貴星の時代）が中殺されます。

物事に慣れてきた頃に問題が起こります。

慣れてくるということは、気持ちのゆるみ・油断といえます。

車の運転も、慣れてくると油断が出て、事故とかの問題が起きます。

天貴星中殺の人は、慣れ、気のゆるみに起因して、おなじようなことが起こりますので、何事にも注意を怠らないことです。

物事に慣れてきた頃に、問題が起きる人ですから、商売をしていて、業績が上がってきても、しっかりとして気を張っていることです。

気の緩みのもとで仕事に問題がでたり、会社が潰れたり、結婚生活であれば、それがもとで離婚ということも起きてきます。もしそのような事態になっても、慌てて動いてはいけません。

それさえ乗り切れば、その後は順調にゆきます。

天貴星中殺の場合、たとえ運勢的に良い時期に物事を始めても問題が起こります。

天貴星は自尊心が高い質を持ちますから、失敗したときの落ち込みの度合いが極端になります。

そのときの落ち込みが激しい人です。

なにかで自信を失うと、一つの分野・その物事だけではなく、全てに自信を失うということが起きます。そして度合いが大きいのです。

天貴星は知識欲の旺盛な星ですから、常になにかを知るという気持ちと行動が必要な人です。

そのことによって、失った自信を取り戻すこともできます。

天貴星は知識欲の旺盛な星ですが、知識欲の中殺ですから、一般的な知識欲ではなくなります。

不自然な知識欲・変わったことに興味を持ちます。

知識欲が中殺されているために、ほかから見ていて、どうでもいいような知識を、身に付ける人です。

〔たとえば〕ある仕事に従事していたら、その仕事に関わる知識を身に付けたほうが良いのに、全く関係のない知識を多く身につける人です。

人があまり関心をもたないことに興味を持つ人です。それゆえ、天貴星中殺は雑学の大家です。

これらの観点からして、天貴星中殺は時代の動向を考えて最先端を走ったり、かなり時代に乗り遅れたりとか、誰も手を付けていないような分野に進むと見事です。

天貴星中殺の人は、一般的知識に対しては、不愉快でもあり、おもしろくないのです。

天恍星中殺

天恍星は子供から大人になる中間の時代（少年時代）です。

ちょうど「親離れする時期」でもあります。

天恍星中殺は親離れの時期が中殺を受けてしまうので、大人に成りきれない現象がでてくるのが大きな特徴です。

成長しても幼さ・子供っぽさが残り、幼稚な考え方、幼児性が抜けきれません。

良くいえば純粹で、子供の頃に抱いた夢や希望をいつまでも忘れられない人です。

悪くいえば、社会常識に欠けますが、常識にこだわらないで、ふつうに人が思いつかないような考え方をする人です。自由な発想のできる人です。

世の中の常識にこだわらない性格なので、堅い仕事は向きません。

変化に応じて対処できる仕事が良いのです。

〔たとえば〕自由な世界、マスコミ、芸能界に向きます。子供の生活は、ある程度、自由^{ほんぼう}奔放な世界にありますから、計画・規制どおりに物事を進められる

と精神に負担がかかります。

それで登校拒否を起こすということもあります。

天恍星中殺は、大人になっても、変化や自由のない束縛された状況を与えられるとノイローゼ、アルコール中毒、異性問題でうさを晴らすようになります。

自由で常識や既成概念にこだわらない発想のできる人ですから、そういう環境を与えられると良いわけです。

天恍星中殺の宿命に合った環境を与えられることで、良い面がでてきます。

天南星中殺

天南星は青年の星、大人の仲間入りをする時代という意味があります。

天南星中殺はちょうど社会に入りたての頃が不自然になるために、思いどおりにならなかつたり、その時期に失敗をしたりという問題が起きる人です。

社会に出るとき・出たときは夢や希望があります。就職したときにはどんな仕事でもするわけですが、その時期に理想と実際がかなりかけ離れた状態を、与えられてしまう人でもあります。

本人の理想と現実の姿があまりにも大きくかけ離れているので、その隙間を埋めることができずに立ち直れないという現象が起きます。

社会に出たての頃に大きな試練を与えられるのが天南星中殺で、世間の水は甘くないということを思い知らされます。この中殺をもつ人は誰でもそうです。その時期を乗り越えられるか、乗り越えられないかで、その後の人生が大きく変わります。

挫折感が天南星中殺の特徴です。

天印星中殺と天南星中殺は、物事のはじめに問題が
でます。

物事のはじめに問題がでる星はこの2星です。

立ち直れるか、立ち直れないかというのは、子供の
時代に決まります。

なぜかといえ、天南星が身強の星です。

中殺されていても、身強であることに変わりありま
せん。

たとえ仕事がつらくても、嫌な上司がいても、耐え
てゆけるのかどうかは、子供の頃の環境にあります。
つまり、過保護で育ったのか、厳しい環境で育った
のかです。

過保護に育てられると、辛いことから逃げようとし
ます。自分が挫折したときに相手の責任にします。

〔たとえば〕会社に入りました。

上司や同僚に、なにか言われたとかの理屈を付けた
りします。

身強の星は星を消化していないと、ちょっとしたこ
とですぐに挫折しますから、子供の頃から厳しく鍛
えられなくていけないのです。

天禄星中殺

天禄星は「壮年の時代」です。

人生の1番の働き盛りでさまざまなことを経験してきた時代であり「経験の星」です。

成功しているのであれば、それなりの経験をしているということになります。

このように経験が人生観になっていますが、それが中殺を受けて不自然になってしまいます。

経験しないと天禄星の良さはできませんが、その経験に固執すると、中殺現象がでますので、その経験が活かされなくなります。

それゆえに、経験にこだわらないほうが伸びます。

〔たとえば〕学校で経理の勉強をしたのであれば……経理関連の仕事に付くのが普通ですが、そのことにこだわらないことです。

天禄星は補佐役の星ですが、それが中殺されているのでトップに立つことができます。

ただし、それには条件があります。

天禄星中殺は、経験に固執しないほうが成功します

から、自分が経験してきたことに、気持ちがとらわれないことで、頂点に立つことができます。

経験してきた事柄を、活用してトップに立とうとしても立てません。

ですから、まったく異質の分野に転職することです。いままで技術系であったとしたら、関係のない分野でトップに立つのです。

天禄星中殺の人は、一生おなじ会社に勤めるとか、おなじ仕事をしていると、平社員止まりです。

もともと、天禄星は転職したら駄目な星です。

天禄星は経験の星ですから、一つの分野で長いこと経験を積んでチカラを磨いてゆく星です。

ところが、中殺を受けている場合は違います。

転職することです。

このように中殺されているときと、中殺されていないときでは、おなじ経験でも内容は大きく異ってしまうのです。

天将星中殺

天将星は家長の星（頂点の星）ですが、そのところが中殺されています。

最高位につくと実力が発揮できません。

トップにつかなければ、実力を発揮できます。

天将星中殺は、補佐役のときにチカラを発揮します。

頂点の星ですから、物事の進行中の大切なときに、失敗するということが起こります。

普段のときにチカラを発揮できても、ここが重要というときにチカラを失う状態になります。

スポーツでも練習中には、強さ・チカラを発揮するのですが、ここが勝負というときにチカラが失速して発揮できないわけです。

本試合になると勝てないのです。

天将星中殺の人は、緊急時には頼りになりません。

天堂星中殺

天堂星は老人の星・隠居の星です。

そのところが中殺されるために〔老人になれない〕
〔隠居〕になれないのです。

そのために、隠居しようと思うと、不自然な状態が
起こります。

これからのんびりしようと思うと病気になるとか、
精神不安定になる、家族と仲が悪くなるということが
起こります。

現役で仕事をしていたときは、それなりに大切にさ
れていましたが、仕事を退職して、家に居るようにな
ると邪魔物扱いされるというようになります。

天堂星中殺はこのような状態になりますから、死ぬ
まで働いたほうが良いのです。

天堂星は身中ですから、激しく働きなさいというこ
とではありません。

自分で何かをできるようにしておけば良いのです。
それはボランティアのような働き方、つまり、収入
を得るために働くということでも良いのです。

女性の場合で、家事が仕事だとすれば、一生それをしてゆけば良いのです。

しかし、お嫁さん、親族から「お母さん・おばあちゃん、家事はいいから……」といわれて働かないと天堂星中殺の現象がでます。

天堂星中殺をもつ若者でも、隠居状態（暇でやることがない）になると、老人特有の現象がでてきます。

口うるさくなる、嫌味をいう、お節介という現象がでてきます。

このように年齢に関係なく、暇ですることがなくなると現象がでるのです。

天堂星中殺の人は、「自分は良い事をしている」と、思って行動していますので、本人は苦しむことになります。

それゆえに、忙しく動いて働くということではなくて、なにかしら、自分がやれることをつくっておくことは必要です。

天胡星中殺

てんゆめせい

天胡星は病人の星（死の直前）です。

通常、死の直前の姿は、かなり高齢で老衰の状態と考えますが、それが不自然になりますので、死に方そのものが不自然になります。

病気になることが不自然になります。

人間の死に方としては、衰弱して病気を併発するとか、精神も肉体も極端に衰えて死んで行くのが自然な死に方とすれば、その反対は突然死になります。

最たる不自然な死に方は“突然死”です。

突然死にもいろいろありますが、病気になっていたのを気が付かない状態で死ぬとか、まったく自覚症状がなかったのに健康診断で病巣びょうそうが見つかり、緊急入院したけど、数日のうちに死んでしまった。

病気が治って退院したけど、数週間後に死にました。というのも入ります。

病気という病気もしないので、健康だとおもっていたら、ゴルフをしている最中に倒れて、そのまま息を引き取ってしまった。

「自分はガンだ」といいながら、働くのを止めないで死亡する。(普通なら入院する状態なのにしない)。

〔病氣回復後の死〕〔事故死〕〔殺人による死〕などがあります。

上記の死に方は、天胡星中殺はこのような死に方です。という状態を挙げたのです。

このように例えを挙げると、早死にと思われるかもしれませんが。

早死には、ほかに原因があります。

人間が事故に遭って死ぬという話、殺されて死ぬという話があります。

早死にということではなく、若くして死ぬにはそれなりの条件があるのです。

天胡星の性格的なことを説明しますと……天胡星は精神と肉体では〔精神が強くて、肉体が弱い〕という姿です。

この状態が不自然になるために〔強い精神に弱い肉体を合わせる〕〔弱い肉体に強い精神を合わせる〕という、このいずれかになってしまいます。

天胡星中殺の人は、すごく気が強いときと、気の弱

いときの差が激しい（大きい）のです。

気が弱いときは、自信喪失のときです。

気が強いときは、自己顕示で自信過剰のときです。

おだてに弱い人ですから、おだてられると自信過剰で、自己顕示が膨らみます。

天胡星中殺の人は、この状態を1日のなかで出すのです。1年のなかで出します。

一生のなかで大きく繰り返して出す。ということもあります。

「病気になったのに気がつかないで死ぬ」状態を、物事に置き換えますと、それらの事柄が実際に悪くなっているにもかかわらず気がつかないということが起こります。内面に悪いことが隠れてしても、表面にでないのが気が付かないのです。

見かけにこだわりやすい人でもあるのです。

天極星中殺

天極星は「死んだ直後で、この世とあの世のあいだを彷徨^{さまよ}っている星」です。

精神と肉体に置き換えますと、あの世へたどりつくまで、さまよう時代ですから、精神と肉体が分離する時代だと考えています。

その分離が不完全・不自然になります。

精神と肉体、肉体を現実として考えますと、本来はその分離がハッキリしている人なのに、中殺を受けますと「精神と現実を混同してしまう」そのようになりやすい人です。

〔たとえば〕自分が問題を抱えて困っているときに、友人から助けてもらったとします。

「あのときは本当に有り難かった」と、感謝の気持ちでお礼をすれば良いのですが、あのことは品物で返せば済む、という感覚になったりします。

現実と精神（心の持ち方）は違うはずなのに、お金持ちだから立派な人として見てしまうとか、高級な装いをしているから人間的にも優れているとか、粗末で

小さな家に住んでいるから、冴えなくて、だらしない人という風な考えをもつ人です。

人からなにか物を頂いたときでも、高価な品でなくても、その人の暖かい人間性が汲み取れるということはありません。しかし、高価な品物をくれないから駄目な人という、判断をする人でもあります。

☞ 物事を判断するときに、冷静に理性で判断しなければいけない事柄を、そのときの勢いや、流れに任せて、^{だせい}惰性で判断したりします。人間としての情^{じょう}で判断しなければならないことを理性で判断してしまい、理性で判断しなければいけないのを、情で判断してしまう側面があります。このことは公私混同しやすい人ともいえますので、公私混同しやすい世界に向いていますから、家族経営に向く人です。時間的制約の縛られない、柔軟な仕事、自由業などの不規則な仕事に向きます。堅い仕事には向きません。天極星中殺は、表面や形にこだわりやすくなりますので、・容姿でも判断をする人です。

参考・理性 [ものごとはそうあるべきであるとして、判断したり行動したりする能力]

参考・情 [真心・思いやりの心]

天庫星中殺

天庫星は「入墓の星」です。

死んで魂はあの世へ行き、肉体は自然に帰る状態が中殺を受けますから、物事の終わりに問題が起こります。

終わりが自分の思いどおりの結果にならないのです。

これはうまくいくと思ったことが、失敗するとか、失敗すると想ったことがうまくいった。そのような事象を含みます。

天庫星中殺をもつ人は、成功と失敗では、失敗するほうに現象が出やすいのです。

期待していたことがうまくいかないで、期待していないことがうまくゆくという現象も起きます。

それゆえに、天庫星中殺の人は、最終的な目標を立てないほうが良いです。

このようにしようと計画していると、そのとおりにいきませんので、目標を立てないほうがよいのです。

天庫星には〔跡継ぎ〕という意味があります。

天庫星中殺でも跡継ぎの意味は変わりません。

しかし、それが不自然になります。

自然な跡継ぎというのは、実家を継ぐことです。

それが中殺を受けますから、自分の生家は継げないことになります。

しかし、生家以外なら継げますので、養子になることもできます。

養子運といえば『天印星』ですけど、天庫星中殺も養子運です。

仕事では、一つの仕事を長く続けることができない現象がでます。

天禄星中殺と天庫星中殺は、おなじ仕事や、おなじ会社にこだわらないで、転職するほうが伸びる星です。

そうでないとトップには立てません。

天馳星中殺

天馳星は「あの世の最高位の星」です。

あの世の頂点、精神性の頂点の星です。

そこが不自然になります。

精神が不自然だからといって、気が狂うということではありません。

精神が不安定になるということです。

しかし、天馳星中殺の人にとっては、精神が不安定なことが正常なのです。

精神が不安定ということは、一つの信念をもたない状態です。その状態が正常なのです。

よくいえば融通性がききます。

いつも心がふらふらしている状態が、天馳星中殺にとって正常な状態です。

天馳星は瞬間的に大きなチカラを発揮する星ですが、それが不自然になりますから、精神性という意味では極端に頭が働くときと、ボケッとしているときの差が大きな人です。

あるいは、やる気のあるとき、やる気のないとき、

その差が激しい人です。

その両面を繰り返します。

ボケッとしているかと思えば、ササッと仕事を始めるというような状態をつくりだします。

まわり人との歩調が合わずに、協調性に欠けるという状態が起こります。

協調性に欠点を見せる人であり、解釈がつかないといえる人、つかみどころのない人です。

頭の回転の早いときと、まったく働かないときの差が大きいのです。

あるいは、のんびりしていても、精神の葛藤は激しいという両極端をもちます。

どんなに困難なことがあっても、直面している問題とは別な事を考える精神状態をもつ人です。

十二大従星中殺のなかで、もっともつかみどころのない人、なにを考えているかわからない人です。

〔天馳星〕 自体にそのような側面があります。

天中殺についての基本的な概念はここまでです。

天中殺はさまざま難しい事象は、これから出てきますが、いままでの勉強が基礎になっています。

天中殺に限ったことばかりではありませんが、運命を観てゆくときには「大運／年運／月運／日運」の4つがあります。

重要視するのは「大運」と「年運」です。

三柱法は、宿命を3本柱「年干支／月干支／日干支」に見立てています。

四柱法は三柱法に「大運」を加えます。

五柱法は「年干支／月干支／日干支／大運／年運」です。実際の占いは、主に五柱法をつかいます。

この10年間の運勢を大まかに観るときは、大運を加えた四柱法で観ます。

天中殺は、1年のなかに……

「月の天中殺」と「日の天中殺」が来ます。

天中殺のなかで、最も重要視しているのは「大運」と「年運」であることを知っておいてください。

⇒ 宿命を観たときに、「辛金」があるとか、ないとかは、陰占の二十八元を含めてのことです。

二十八元表を見ておわかりのように……、

(丑) のなかには、〔癸水 辛金 己土〕の3つ蔵干が入っています。中元に〔辛金〕があります。

⇒ 純濁を観るときには、純星の数と濁星の数では、どちらか多いのか、少ないのか、それを観て^{すなお}素直に取ってください。

そのほかにおなじものが加われば、濁あるいは純の要素が加算されるだけです。

【初年】 6 1 回目【天中殺論(7)】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 6 2 回目【宿命と健康】です。